



「中小企業は、わが国経済の礎」 ～さらなる挑戦をめざして～

五 嶋 耕太郎 石川県中小企業団体中央会会長

我が国経済は、一昨年秋以降、世界的な急激かつ大規模な需要減少に直撃され、輸出関連企業を中心に、生産の大幅な低下、設備投資の抑制、雇用の悪化等に歯止めがかからず、デフレ基調の中で、過去に経験したことのない広がりや深さで停滞が続いております。

また、昨年9月には新政権が誕生し、新たな手法による政治運営が模索されておりますが、日本経済にとってもこの一年は、そのあり方にかかわる極めて重要な年になるものと予測され、政府の果たすべき役割や舵取りは、これまで以上に重要になってくるものと考えられます。

こうした中、中小企業者は、幾多の不況を克服して培ってきた経験や企業努力の限界を超えるような厳しい局面に立たされております。

本県でも、これまで地域経済を牽引してきた輸出関連企業を中心に、過去最大級の減産体制の中で、何とか雇用を維持しつつ存続をかけた取り組みを続けております。

このような情勢を踏まえ、本県においては、県当局を中心に時宜を得た緊急経済雇用対策が積極的に打ち出され、金融面、雇用面を核とした中小企業支援策が推進されております。

いうまでもなく、こうした施策をより効果的なものにするためには、各企業の積極的な取り組みはもとより、企業間の連携を進め、協同組合活動などを通じて資金力・技術力を高めるとともに、無駄をなくした効率的な経営が求められるのであります。

したがって、中小企業の連携を支援する本会といたしましては、今後とも、連携組織の構築、創業・再生支援、経営革新の推進や地域資源活用による新たな事業の創出を図るとともに、国の指定を受けて実施している地域力連携拠点事業をはじめ、ものづくり対策や人材養成、さらには中心市街地活性化等に積極的に取り組んでまいり所存であります。

さて、2010年の日本経済であります、「米国の金融安定化策や各国の政策発動の実効等による潜在需要の顕在化や新興国の需要増に牽引され、緩やかに回復する。」との見方がある一方、「デフレ、円高、株安の中で二番底の恐れがある。」との厳しい見通しもありますが、いかがでしょうか。

いずれにしても昨今の厳しい景況下にあっては、将来を見据えた人材の育成や技術開発など中長期的な視点で企業の力を蓄えるとともに、新たな一年を迎えた初春に、冬を経て新芽を膨らます草木のように、“今が好機”と気を充実させて積極果敢に挑戦していくことが肝要と考えます。

ご承知のとおり、中小企業はわが国経済の礎です。雇用を支え、地域経済の活力の源泉であります。厳しい局面の中で迎えた本年は、これまでも増して中小企業の皆様の声をお聞きし、「ともに考え、行動し、結果を出す中央会」として、最大限の努力を傾ける決意であります。各位のさらなるご支援、ご協力をお願いいたします。

皆様と迎えました新しい年が、明るい希望に満ちた一年となりますよう心よりお祈り申し上げます、年頭のご挨拶といたします。